

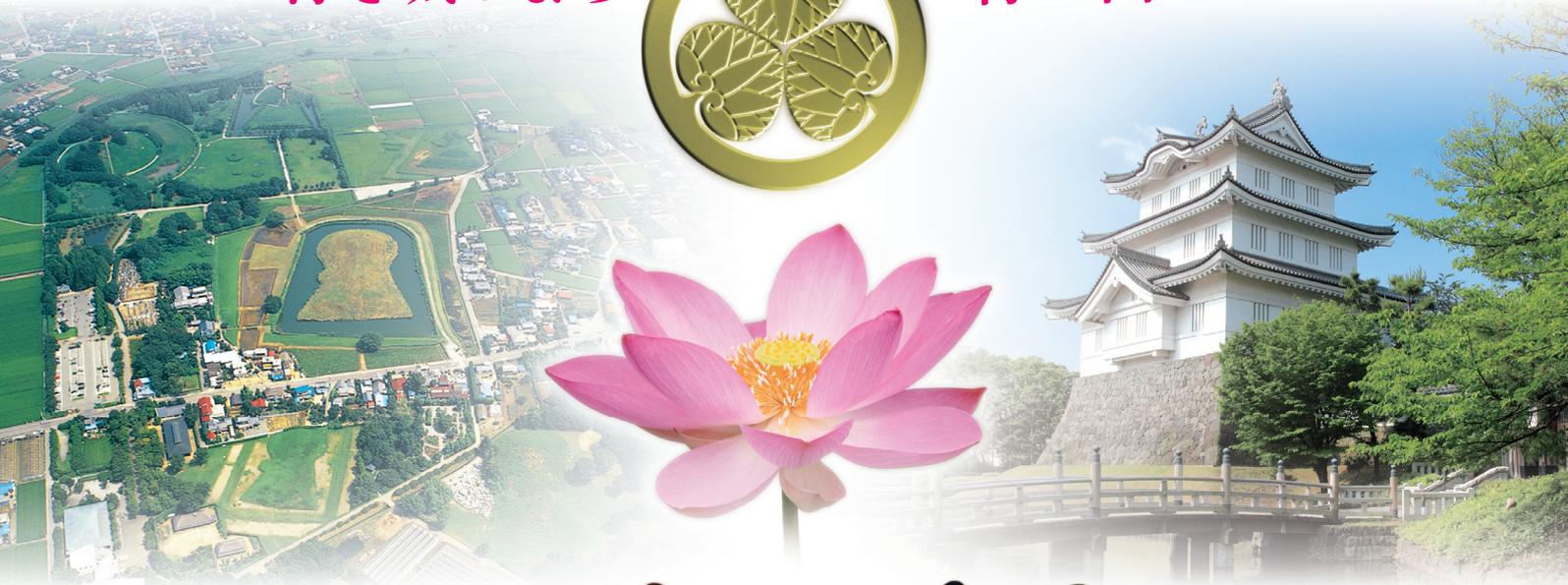


藩学進脩館横額(行田市指定有形文化財)

浮き城のまち



行 田 へ



素読教室の子どもたち

忍藩から現代へ 人と発展

— 藩校サミット特集 —

No.70

平成25年12月1日

忍郷友会報

松平忠寿翁書

忍郷友会会報 第七十号 目 次

次

二〇一四年 公益法人としての新たな歩みと展開……………松平 忠昌……………1	平成25年度 定時総会報告……………小山 博……………2	「財団法人 忍郷友会とは」……………4	平成24年度 事業報告……………5	収支決算書・貸借対照表……………7	忍郷友会役員名簿……………8	第28回 浮き城のまち行田……………9	「少年の主張大会」……………瀬山 文孝……………9	忍郷友会会長賞作品①……………星野 美月……………9	忍郷友会会長賞作品②……………蓮見 萌……………10	忍郷友会会長賞作品③……………坂木 琴音……………11	読書推進運動について……………大野 年司……………12	進脩塾活動について……………田代 敬二……………13	平成25年度 会員名簿……………15	平成25年度 事業行事経過メモ……………16	第12回全国藩校サミット行田大会特集……………18	「藩校教育の理念を今に」……………矢澤 大和……………18	藩校サミットの意義とこれ迄の経過……………田代 敬二……………19	忍藩の歴史と忍郷友会……………渡邊 栄一……………20	藩校サミットを私達の手で成功させよう……………鈴木 秀憲……………22	忍藩の先見的教育と人材 （忍藩洋学校教官青木輔清）……………若松 良一……………23	俳句・短歌……………25	コラム……………27	御名刺掲載欄……………29	編集後記……………黒淵 陽夫……………32
---	------------------------------	---------------------	-------------------	-------------------	----------------	---------------------	---------------------------	----------------------------	----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	----------------------------	--------------------	------------------------	---------------------------	-------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------	-------------------------------------	---	--------------	------------	---------------	-----------------------

二〇一四年 公益法人としての新たな歩みと展開



財団法人 忍郷友会
会長 松平 忠 昌

新法に基づく公益財団法人としての年を迎えて、順調に各事業が展開されている事はご同慶の至りであり、これも偏に会員各位のご協力と関係者の献身的なご尽力の賜物と感謝する次第であります。

明治三十八年（一九〇五年）に発足して一〇九年を迎えました当会は、全国でも比類のない長寿の公益財団法人であり、先輩諸氏を始めとする会員各位の揺ぎのない郷土愛と献身的な奉仕の精神に支えられ、活動の柱を国や行田の宝である青少年の教育を支援する事に置き、人材育成の為に自らが出来る事を実施する「一燈照隅」の運動を展開している訳であります。

今年は、七月五日・六日の両日

行田市にて「全国藩校サミット」が開催される予定であり、「出逢い」と「思い遣り」の心で、当会会員のみならず市民こそ行って行田市に来られる藩校関係者を行田らしい「おもてなし」で歓迎したいものです。

更に来年は当会の一一〇周年を迎える事になり、地元行田における事業活動を益々活発にして参りますので、皆様のご協力・ご尽力をお願いする次第です。

青少年の教育・人材の育成は当会を含めた行田市の普遍的な急務であり、「少年の主張大会」、「読書推進」、及び「進脩塾」（忍藩こども素読教室、論語講座）の事業は、当会の事業活動の柱として継続して実施して参ります。

一方、財源についても、会員各位のご寄附により活動の継続に目処が立っておりますが、会員各位のご理解とご支援・ご鞭撻は不可欠なものと云えますので、引き続き宜しくお願い申し上げます。

国内では、二〇一三年に政治体制に再度の激変があり、国を守る体制が整い、将来に希望を持てるようになったと思われ、アベノミックスによる経済諸策により景気も好転しつつあると思われれます。しかし、長年に亘る心の教育が欠如してきた為か、人の荒廃は留まらず、次世代の事が懸念されます。唯一、明るいニュースは、二〇二〇年東京オリンピックの招致の成功でしょうか？6年後が楽しみでもありません。

海外では、隣国からの「領土問題」を始めとする対日外交の激化が見受けられるので、日本としては米国や他の国の首脳との関係を強固にしながら、「尖閣諸島」や「竹島」問題、「北朝鮮問題」、等々に対処しなければ

ならず、我々も留意するべきと考えます。

当会は、「教育への支援」を軸に、自分達の「するべき事と出来る事」を着実に推進し、将来にも目を向けて活動して行く事が重要であると思っております。

引き続き「エリートを育成する教育への支援」を軸に置いて、地元行田からこれからの日本や世界を背負って立つ人材を輩出させる環境造りを目指し、事業を継続・展開して参りたいと思っております。

宜しくご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



平成二十五年年度 定時総会報告



事務局長 小山 博

平成二十五年六月二日(日)十四時より行田市内アイトピアに於いて、総会及び懇親会を開催。開会に先立ち理事会、評議員会を開催。小山博事務局長(理事)より、本日の理事数十三名(内委任状二名)は寄附行為第三十五条に規定する定足数を満たしており、本理事会は成立している旨の報告がなされた。

寄附行為第三十四条の規定に基づき、松平忠昌会長が議長となり、議事録署名人として黒淵陽夫理事、碓井勝也理事の二名を指名し、両氏は議事録署名人を受託、議案の審議に入った。

「第一号議案」公益法人移行に伴う規程集について、松平議長から議案説明のため、小山博事務局長(理事)を議長に指名し、審議を行なった。

松平忠昌会長より、公益法人移行に伴う規程集について説明があり、

この規程集は内閣府の承認を受けた日から施行する旨の説明があった。この事について、矢澤理事、渡邊理事から質問があり、続いて審議の結果、全員異議なく本案は承認可決された。

「第二号議案」藩校サミット行田大会について、(財)忍郷友会内に「藩校サミット協力委員会」を設置する事(矢澤委員長)で全員異議なく本案は承認可決された。

続いて十四時四十分より評議員会を開催。開会に先立ち、小山事務局長より本日の出席評議員数二十八名(内委任状七名)は、寄附行為第三十五条に規定する定足数を満たしており、本評議員会は有効に成立している旨の報告があり、議長選任に入った。

議場から松平会長にお願いしますとの声がかかり松平忠昌会長が受諾した。議事録署名人として諸貫健一氏、横川福治氏の二名を指名し、両

氏は議事録署名人を受託した。

「第一号議案平成二十四年度事業報告」について、小山博事務局長(理事)より、別紙「平成二十四年度事業報告書(案)」に基づき説明があり、全員異議なく本案は承認可決された。更に「第二号議案平成二十四年度収支決算について小山博事務局長より説明が行なわれ、続いて、監査報告を保泉欣嗣氏が監査を代表し、平成二十五年四月十六日(火)午後一時より行なった監査結果について監事加藤力也、同岩崎安裕、同保泉欣嗣が出席して、詳細に点検した結果、正確である事を確認したとの報告があった。審議の結果、出席評議員全員をもって本案は承認された。



第三号議案、定款及び公益法人移行に伴う規程集について、松平忠昌議長を小菅克祥評議員に交代して、審議を行なった。

松平会長より説明が有り、この規程集は内閣府で承認を受けた日から施行するとの説明があり、全員をもって本案は承認された。更に、「第五号議案」藩校サミット協力委員会」設置について提案去れ、審議の結果、全委員異議なく本案は承認可決された。

休憩を挟み、十五時三十分より、矢澤大和理事の司会により総会が開会され、司会者より物故会員のご冥福を祈りたいという発言により、全員起立し渥美大童氏(版画家)の霊に黙祷を捧げた。

会議は松平会長が議長席に着き、議事進行、小山事務局長から同日開催された、理事会、評議員会の審議内容、承認事項等、会務報告がなされ、引き続き、各事業委員長より、それぞれの事業報告が配布資料に基づき、詳しく説明された。

このあと、来賓として、行田市長 工藤正司様、行田市議会副議長 東美智子様、行田市教育委員会委員長 岸田昌久様、行田商工会議所会頭 小川雅以様より祝辞を頂いた。

第二部 記念講演会

「全国藩校サミットの成り立ち」

「藩校教育を現代に生かす」

講師 一般社団法人 漢字文化振興協会

事務局長 白石宗靖氏

山本憲作理事の司会により、十六時四十五分開会、講演に先立ち新脩塾主幹田代敬二理事から講師紹介で開会した。

今何故藩校サミットなのかから入り、第一回平成十四年三月、東京湯島聖堂を皮切りに、本年三月、第十一回鹿児島大会までの経過と意義について詳しく述べられた。

今、日本人は若者を中心に漢字が書けなくなっている。近代文明のパソコンは大変便利であるが、この為漢字を書かなくてもパソコンがそれを代理してくれる。年賀ハガキ、暑



中見舞い九十%はパソコンで書かれていて、その手書きのものはほんの一部でしかない。

従って、漢字は読めても、自分では書けなくなっている人が増えている。こうした事態に危機感を持ったのが藩校サミットの始まりである。全国藩校サミットは、江戸時代後期から全国の各藩に相次いで設立された藩校の持つ優れた教育理念を再評価し漢字文化や王道政治の基本理念など日本独特の伝統教育を現代に生かそうと訴えて、第十二回大会を行田で開催されます。

行田大会では、サミット本来の目的に鋭意努める他、行田市が選ばれた好機を生かして、地元行田の歴史的文化遺産の紹介と知名度アップだけでなく、行田市民の誇りと市民意識昂揚の為に、そして、市民の連帯感「まち」づくりにも大いに役立て頂きたい。(以下略)

第三部 懇親会

倉持誠一朗評議員の司会で、講演会に続き開会。

渡辺栄一副会長の挨拶で始まり、



来賓祝辞は、行田市教育委員会教育長 中村猛様、前人事院総裁江利川毅評議員、行田商工会議所名誉会頭 鈴木秀憲様に祝辞を頂き、その他の来賓及び財団法人忍郷友会新会員を紹介した。

乾杯は、旧忍藩主阿部家第二十二代ご当主 阿部正靖様にお願ひし、にぎにぎしく懇親会は例年になく多くの会員が参加の中で始まった。二十時にすべて終了。

(文責 小山 博)

社会福祉施設

教育・文化施設

オフィス・工場

店舗・商業施設

耐震補強

建物リニューアル

技術と環境の未来を見つめて

小川工業株式会社

埼玉県行田市桜町1-5-16 TEL.048-554-4111

財団法人 忍郷友会 とは・・・

創 立

明治四年（一八七一年）の廢藩置県で東京を初め全国に散った旧藩士の人達八十名が、明治三十八年（一九〇五年）十月二十二日東京向島百花園に集まり、郷友親睦の会として発会式が行われたのが本会の始まりであります。

同年十二月六日には、旧藩主嗣子松平忠壽少尉の日露戦争凱旋祝賀会が盛大に開催されて、本会の基礎が固まり、会報第一号が刊行されました。

その会報には、「旧藩士族ノミニ」とどまらず「士農工商ノ別ナク婦人女子ヲ併セテ」会員とする旨の記載もあり、土族のほか忍に所縁の一般の人達も参加して、交流を深めることとなり、会員相互の親睦、個人の知徳の涵養を目指しながら、最初は東京に遊学する忍町の学生を援助する等、後継者の育成と郷土の文化発展にも意を尽くして年月を重ねてきています。

財団法人の認可

昭和十年の創立三十周年大会以後は、それまでの幹事制から会長制に替わり、林頼三郎法学博士を会長に、松平忠壽貴族院議員を名誉会長に選び、その後昭和昭和十三年に文部省（現文部科学省）より、「教育活動を行う財団法人」として認可を受け、今日至っています。

全国的に見ても郷友会という名前の組織は各地にあります。法人格を有しているものは、今もほとんどないと聞いており、ユニークな会と云えます。

現在の会長は、（奥平）松平忍家十六代の松平忠昌氏です。

会 員

本会は明治、大正、昭和、平成の大きな歴史的な試練にもめげずに活動を続けており、創立百周年を超えるに至っています。会員の延べ人数は数千人を数えるになり、その方々の活躍の場は、政界、官界、法曹界、経済界、学界、美術芸能、（戦前の）軍部など多岐に亘っています。創立後一世紀、忍郷人として誇り高く生きてきた郷土を愛する人々の集まりです。何処にいても、いつも行田のことが忘れられない人々の集まり、それが「忍郷友会」で、現在の会員数は二百三十余名です。

目的と事業

今も尚、先人の遺志を受け継ぎ、行田地方を中心に東京、川越など国内県内外の会員有志に支えられて、従来からの会員相互の親睦、知徳の涵養と人格の向上を図りながら、併せてこれからの地域社会や国家に役立つリーダー後継者の人材育成を目的に、社会教育事業と学校教育の支援事業を行っています。本会の目指す究極の人間像は「確かな知識を持ち、郷土を愛する高い倫理観と品格を備えた人」です。



平成二十四年度 事業報告

1 会 議

(1) 総 会

① 定時総会開催

(会務報告、講演会、懇親会)

日 時 平成二十四年六月十七日(日)

参加者八十三名

午後一時五十分～午後八時

会 場 行田市・ベルヴィアイトピア
来 賓

衆議院議員

本多 平直様

埼玉県議会議員

鈴木 聖二様

行田市市長代理教育長

中村 猛様

行田市教育委員会委員長

岸田 昌久様

行田商工会議所名誉会頭

鈴木 秀憲様

行田商工会議所会頭

小川 雅以様

行田商工会議所副会頭

細井 保雄様

行田さくらロータリークラブ会長代理

阿部秀二郎様

行田青年会議所理事長

井上 光広様

埼玉新聞社社長

小川 秀樹様

旧忍藩主阿部家二十二代ご当主

阿部 正靖様

松平忠昌議長より平成二十三年度の事業および決算、監査について報告があった

記念講演

「私のふるさと
そして会社経営で学んだこと」

講師 松沢 幸一 様

(キリンビール(株)前社長)

懇親会

アトラクション

青柳有香子(二期会会員)

大野明子(ピアノリスト)

野バラ 他

② 定時総会

(会務報告・賀正会)

日 時 平成二十五年一月二十六日(土)

会 場 霞会館(霞が関ビル三十四階)

来 賓

行田市副市長(市長代理)

山崎 明弘様

行田市教育委員会委員長

岸田 昌久様

行田商工会議所名誉会頭

鈴木 秀憲様

行田商工会議所会頭

小川 雅以様

前人事院総裁

江利川 毅様

埼玉新聞社社長

小川 秀樹様

旧忍藩阿部家二十二代ご当主

阿部 正靖様

(社)行田青年会議所理事長

小川 智右様

松平会長より平成二十五年年度の事業計画及び予算について報告があった

(2) 役員会

① 理事・監事合同準備会

日 時 平成二十四年四月二十五日(木)

午後二時三十分～四時三十分

会 場 行田本部事務所 会議室

審議事項

1 平成二十三年事業報告書

(案) について審議

2 平成二十三年収支決算書

(案) について審議

3 平成二十三年度の事業・決算

に係る監査

4 役員改選(案) について審議

5 平成二十四年六月十七日(日)

総会開催について

6 その他

定時総会日に開催される理事会・

評議員会に提案する審議事項並びに

総会報告事項の決定、総会の運営進

行等について打ち合わせ

② 評議員会・理事会

日 時 平成二十四年六月十九日(日)

午後一時五十分～三時三十分

会 場 ベルヴィ・アイトピア

審議事項

1 平成二十三年度の事業報告が

なされ審議・承認

2 平成二十三年度の決算報告が

なされ審議・承認

3 平成二十三年度の事業に係わ

る監査報告

4 役員改選について審議・承認

5 その他

③ 理事・監事会

日 時 平成二十四年十一月二十日(火)

午後一時三十分～三時

会 場 行田本部事務所 会議室

審議事項

1 平成二十五年事業計画(案)

について

A「進脩塾」事業計画案につ

いて審議

B「浮城のまち行田少年の主

張大会」事業計画案につ

いて審議

C「読書推進実行委員会」事

業計画案について審議

2 平成二十五年年度予算(案)につ

いて審議

3 平成二十五年一月の理事会・

評議員会、総会・賀正会の日

行等について打ち合わせ

行等について打ち合わせ

行等について打ち合わせ

行等について打ち合わせ

行等について打ち合わせ

行等について打ち合わせ

程について小山博事務局長より平成二十五年一月二十八日(土)に開催したいとの提案があり審議

4 その他

2 教育奨励事業

I 進脩塾活動

① 公開講座

「郷土先人の業を」

明らかにする市民講座」

及び忍藩子ども塾素読教室発表会

日時 平成二十四年六月二十三日(土)

午後一時三十分～四時

会場 行田市商工センター大ホール

講師 村山吉廣先生(早稲田大学名誉教授)

『近藤棠軒先生の宋名臣言行録を読む』

受講者 一八〇名

② 定例講座

四月「孟子」荒井 桂先生

五月「孟子」田代敬二先生

八月「孟子」荒井 桂先生

九月「孟子」荒井 桂先生

十月「孟子」荒井 桂先生

十一月「孟子」荒井 桂先生

※行田ケーブルテレビにて放映

(内容)進脩塾の目的、講義、受講者の感想、今日の論語から

③ 忍藩子ども塾素読教室の開催

日時 毎月第一、第二、第三土曜日

午前九時三十分～十一時三十分

場所 行田市郷土博物館講座室

受講者 行田市内低学年児童(四才～八才まで) 四十七名

講師 田代敬二、奥田七寿、川田隆生先生

内容 論語・漢詩・古事記の学習

④ 東京支部素読教室開催

(二十三年五月より)

日時 毎月一回土曜日

午後二時～三時三十分

場所 天眼寺(東京上野)

受講者 天眼寺関係者 十三名

講師 田代敬二、奥田七寿、川田隆生先生

内容 論語・漢詩の学習

⑤ 出前出張授業

Ⅱ「第二十六回・浮城のまち行田少年の主張大会」優秀者表彰

日時 平成二十四年十一月二十四日(土)

会場 行田市教育文化センター「みらい」ホール

発表者 市内小・中学校児童・生徒、父兄等二百五十名参加、本会、松平 忠昌会長より記念品を贈呈した。

Ⅲ 第十一回読書推進学習会

読み聞かせボランティアスキルアップ講座と交流会

「おはなしで遊ぶ」

日時 平成二十四年二月四日(土)

午後二時～四時

会場 行田市男女共同参画推進センターVIVAぎょうだ二階学習室

講師 藤田浩子先生(語り手・幼児教育者)

受講者 六十四名

⑥ 漢文検定試験の実施

日時 平成二十四年十一月二十三日(土)

場所 行田市郷土博物館講座室

受験者 三十二名(寺子屋の部初級、中級、上級)

3 会報69号の発行

会報六十九号を平成二十四年十二月一日に発行

全会員、市内各小、中、高校、幼稚員、保育園及び素読教室関係者に配付

① 叙勲・褒章受章

② お悔やみ申し上げます

渥美 大童 様

(平成二十五年一月一日ご逝去)

正田 善洗 様

(平成二十五年一月十六日ご逝去)

大谷 龍良 様

(平成二十五年三月五日ご逝去)

4 慶 弔

① 叙勲・褒章受章

② お悔やみ申し上げます

渥美 大童 様

(平成二十五年一月一日ご逝去)

正田 善洗 様

(平成二十五年一月十六日ご逝去)

大谷 龍良 様

(平成二十五年三月五日ご逝去)

5 総会員数

二四〇名

(平成二十五年三月三十一日現在)



法人名：財団法人 忍郷友会

事業名：事業全体

自 平成 24 年 4 月 1 日

至 平成 25 年 3 月 31 日 決算

収支計算書

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	差 異
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
① 基本財産運用収入			
基本財産配当金収入	100,000	101,286	1,286
② 会費収入			
正会員会費収入	1,600,000	1,794,000	194,000
③ 事業収入			
総会事業収入	1,000,000	1,115,000	115,000
進脩塾事業収入	970,000	963,471	△ 6,529
④ 寄付金収入	1,000,000	1,000,000	0
⑤ 雑収入	250,000	409,572	159,572
⑥ 他会計からの繰入金収入			
積立基金取崩収入	0	0	0
事業活動収入計	4,920,000	5,383,329	463,329
2. 事業活動支出			
① 事業費支出			
総会事業支出	1,400,000	1,234,138	△ 165,862
会報発行事業支出	250,000	261,826	11,826
進脩塾事業支出	970,000	1,093,471	123,471
少年の主張大会支援事業支出	250,000	263,613	13,613
三端懇話会事業支出	0	0	0
読書推進支援事業支出	50,000	50,000	0
通信運搬費支出	250,000	306,708	56,708
消耗品費支出	150,000	245,720	95,720
雑支出	80,000	686,080	606,080
事務所賃借料支出	450,000	360,000	△ 90,000
租税公課支出	0	0	0
慶弔費支出	50,000	0	△ 50,000
その他事業支出	0	0	0
② 管理費支出			
事務職員給料支出	840,000	840,000	0
会議費支出	200,000	100,573	△ 99,427
旅費交通費支出	100,000	4,580	△ 95,420
事業活動支出計	5,040,000	5,446,709	406,709
事業活動収支差額	△ 120,000	△ 63,380	56,620
II 投資活動収支の部	0	0	0
III 財務活動収支の部	0	0	0
IV 予備費支出	50,000	0	△ 50,000
当期収支差額	△ 170,000	△ 63,380	106,620
前期繰越収支差額	3,560,000	3,352,993	△ 207,007
次期繰越収支差額	3,390,000	3,289,613	△ 100,387

(注) 予備費 使用せず

財産目録

(単位：円)

科 目	金 額
I 資産の部	
1. 流動資産	
現金預金	
現金手許有高	17,416
普通預金	342,381
郵便貯金	2,586,622
(00120-2-4844)	343,194
流動資産合計	3,289,613
2. 固定資産	
(1) 基本財産	
投資有価証券	6,290,221
基本財産合計	6,290,221
(2) 特定資産	0
(3) その他固定資産	0
固定資産合計	6,290,221
資産合計	9,579,834
II 負債の部	
負債合計	0
正味財産	9,579,834

有価証券の内訳

内訳： 東京電力株式 1,983株 (内登録株 19株)
東京瓦斯株式 11,254株

支出の部の内訳書

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	差 異
事業費			
(総 会 費 用)	1,400,000	1,234,138	△ 165,862
(会 報 発 行)	250,000	261,826	11,826
(進 脩 塾)	970,000	1,093,471	123,471
(少年の主張支援)	250,000	263,613	13,613
(三端懇話会支援)	0	0	0
(読書推進支援)	50,000	50,000	0
小 計	2,920,000	2,903,048	△ 16,952
その他事業費	0	0	0
慶弔費	50,000	0	△ 50,000
一般管理費			
(通 信 運 搬 費)	250,000	306,708	56,708
(事 務 用 品 費)	150,000	245,720	95,720
(交 通 費)	10,000	4,580	△ 95,420
(雑 費)	80,000	686,080	606,080
小 計	580,000	1,243,088	663,088
会合費	200,000	100,573	△ 99,427
事務所賃借費	450,000	360,000	△ 90,000
業務職員給与	840,000	840,000	0
租税公課	0	0	0
積立基金取崩支出	0	0	0
予備費	50,000	0	△ 50,000
合 計	5,090,000	5,446,709	356,709

貸借対照表

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金			
現金	17,416	18,060	-644
普通預金	2,929,003	3,183,929	△ 254,926
郵便貯金	343,194	151,004	192,190
流動資産合計	3,289,613	3,352,993	△ 63,380
2. 固定資産			
(1)基本財産			
投資有価証券	6,290,221	4,801,113	1,489,087
(2)特定資産	0	0	0
(3)その他固定資産	0	0	0
固定資産合計	6,290,221	4,801,134	1,489,087
資産合計	9,579,834	8,154,127	1,425,707
II 負債の部			
負債合計	0	0	0
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産	0	0	0
2. 一般正味財産	9,579,834	8,154,127	1,425,707
(うち基本財産への充当額)	(6,290,221)	(4,801,134)	(1,489,087)
正味財産合計	9,579,834	8,154,127	1,425,707
負債及び正味財産合計	9,579,834	8,154,127	1,425,707

平成二十五年(財)忍郷友会役員名簿

理事

松平 忠昌(会長)
渡邊 榮一(副会長)
小山 博(事務局長)

理事 確井 勝也
理事 大野 年司
理事 小川 雅以
理事 黒瀨 陽夫
理事 鈴木 秀憲
理事 清水 龍男
理事 田代 敬二
理事 中川 邦明
理事 矢澤 大和
理事 山本 憲作

監事

監事 岩崎 安裕
監事 加藤 力也
監事 保泉 欣嗣

名誉理事

名誉理事 佐藤孝太郎
名誉理事 江草 忠敬
名誉理事 清水 義夫
名誉理事 古市 實
名誉理事 堀 岩夫
名誉理事 宮川 公男

特別会員

特別会員 阿部 正靖
特別会員 安藤 敬一
特別会員 坂巻 敏夫

評議員

評議員 青柳 憲助
評議員 新井 啓介
評議員 新井 利誠
評議員 飯塚 啓子
評議員 井上 啓彦
評議員 五十幡和彦
評議員 永島 健雄
評議員 江利川 毅
評議員 大谷 純一
評議員 大久保 毅
評議員 大澤 誠
評議員 大西 義道
評議員 小沢 健一
評議員 川辺 秀夫
評議員 倉持成一郎
評議員 小池 俊輔
評議員 小林 晴夫
評議員 木暮 照子
評議員 小菅 克祥
評議員 瀬山 文孝
評議員 中島 捷二
評議員 橋本 恭一
評議員 長谷川雅敏

幹事

幹事 東 瑞芳
幹事 飯島 千裕
幹事 五十幡和彦
幹事 内田 善康
幹事 小沢 健一
幹事 川島 亨
幹事 坂田 幸彦
幹事 瀬山 文孝
幹事 長島 豊
幹事 長谷川雅敏
幹事 松岡 由浩
幹事 中川 邦明
幹事 大澤 誠
幹事 渡邊 久記
幹事 新井 誠

装幀リニューアル!

ポケット六法

収録法令187件 平成26年版 定価1890円(税込)

薬物犯罪者一部執行猶予法・消費税転嫁円滑化法等を新収録
非訟・家事事件手続規則の全文を収録

[編集代表] 井上正仁 能見善久

有斐閣判例六法

Professional 平成26年版 定価5670円(税込)

刑法等重要法令の改正に対応!
最新判例多数収録!

[編集代表] 井上正仁

有斐閣判例六法

平成26年版 定価2730円(税込)

日本国憲法に関する注目書を増刷 宮沢俊義・国分一太郎 著

新書 わたくしたちの憲法

定価945円(税込)

代表取締役社長 江草貞治
株式会社有斐閣
東京都千代田区神田神保町2-17
代表 03-3264-1312 FAX03-3264-5030




第二十八回 浮き城のまち行田 「少年の主張大会」

少年の主張 副委員長 瀬山 文 孝

平成二十五年十一月十七日(日)十三時より行田市教育文化センター「みらい」ホールにて、第二十八回浮き城のまち行田「少年の主張大会」が開催されました。

この大会は市内の小・中学校の代表者が日常生活を通して考えていることを市民に発表するもので、青少年健全育成を図るために、行田市教



育委員会・青少年育成行田市民会議が主催し、(財)忍郷友会が後援となり毎年開催されているもので、昭和六十一年度の初回から今年まで二十八回目になります。発表者は市内小学校六年生十八名と中学校三年生から十名の計二十八名の児童生徒が参加しました。今年のテーマは家族・友達・ペット・将来の夢・郷土・学校生活・など多岐にわたるテーマで力強く発表していただきました。

特に、第二十六回大会以来発表のテーマとして多くの児童生徒の皆さんたちが取り上げてきた東日本大震災に関する発表が今回はありませんでした。

来賓挨拶の中で当財団の松平会長からは「第二十八回目の少年の主張大会が、盛大に執り行われたことにお祝いを申し上げます。これからの日本を背負って立つ若人の息吹に触れることが毎年楽しみである。皆さんにとってこの大会は初めてだと思

うが、しっかりと挑戦してほしい。今日の発表者の皆さんに贈る言葉として「大きな志」を持っていただきたい。そして「学び」それは自分を磨くことであり、思いやりを工夫する力である。最後に「愛」そこには色々な要素があるが、今日は恩に報いる愛に気づいていただきたい。ご両親や各方面の関係者に支えられて、この大会に参加している事への感謝の気持ちを忘れないでほしい。と結ばれました。

審査終了後、主催者代表より表彰

状を、松平会長より発表者全員に「広辞苑」が贈呈されました。優秀者は次回賀正会にて発表していただきますのでどうぞお楽しみにしてください。

当会からは松平会長・渡辺副会長・小山理事・矢沢理事・岩崎監事・渡辺評議員・新井評議員・奥田会員・清水事務局員の参加をいただきました。

来年も多くの会員の参加をいただければと思っています。是非、子供達の生の発表をお聞き下さい。

忍郷友会会長賞三作品を紹介します

忍郷友会会長賞 小学校の部

わたしにできることを

行田市立中央小学校六年 星野 美月

みなさんは、自分にできることを考えたことがありますか。そして、そのことを行動に移したことがありますか。

わたしは、今年の夏休みに「埼玉県青少年赤十字リーダーシップ・ト

レーニングセンター」に参加しました。リーダーとしての心構えや赤十字に関すること、救急法の実技練習など、たくさんのことを学んできました。

このリーダーシップ・トレーニング



今年の六月、庭に初めてキノコが生えました。芝生から十センチほどの真っ白なかさをひよっこりとのぞかせて、突然そこに現れたという感じでした。その場所は愛犬ハッピーがよく寝転がっていた場所でした。

忍郷友会長賞 中学校の部

家族としての大切な記憶

行田市立長野中学校三年 坂木 琴音

がわかりました。私はとても驚きました。住んでいる所の環境によって、こんなにも感じ方が違うことを、そのとき初めて知りました。
お母さんは、「行田は車がないと不便なところね。」とよく言います。確かに、駅が遠いことは不便かもしれません。けれど私は、自然豊かな

行田ですつと育って、自然に触れたり自然と遊んだりできて本当に楽しかったし、よかったと思っっています。だからこれからも、私たちが大人になっても、この行田の自然を大切にしていきたいです。そして、自然と共存しながら、みんなが便利に住みやすい町になってほしいです。

母は「きつとハッピーの生まれ変わりだね。」とうれしそうに、でも少しさびしげにつぶやきました。なぜそう思ったのか、と尋ねることもせず、なぜいきなりキノコが生えたのかという疑問もどこかに消え、私も心の底からハッピーが会いに来てくれたのだと思いました。

家族となったその日、掌ののっぺりした小さくて愛らしいその命に出会えたことを感謝し、涙を流して喜びました。名は漢字で幸福の福と書いてハッピー。私たちが呼ぶととてもうれしそうに尻尾を振って駆け寄る姿が今でも目に浮かびます。

それからハッピーは屋内で番犬として成長していきました。夏の暑さとお風呂が苦手でしたが、病院の注射もおとなしく我慢するくらい、ハッピーは素直でいい子でした。

そんなハッピーがけいれんを起こしたのは去年の六月のことでした。ふらふらしたと思ったらいきなり倒れ、手足はつっぱって全身がぶるぶると震えだし、苦しそうでした。振るえがおさまったかと思うとせえせえと息をし、口から唾液をだらだらと垂らしたので急いで動物病院へ行きました。てんかんという原因不明、突発性の病気でした。でも大概は一分前後でおさまり、心配ないということ、念のため人間の薬を飲ませていました。しかし、脳への異常な刺激で起こるため、ときには家族のことさえ忘れてかみつくこともありました。はじめてのことでした。

その日は突然でした。朝からけいれんを何度も起こし、ハッピーの心臓は停止しました。深夜三時では病院も閉まっていたましたが、連絡をすると夜間専門の先生が電話をくださいました。私はそのときの言葉が今でも頭から離れません。「まわりにご家族全員いますか。きつとその子も幸せだったことでしょう。」と。涙が止まりませんでした。夜明けの空、まだ生きているかのように温も

りの残る毛布。目を真っ赤にしながら、ハッピーへの別れの手紙を書きました。

今では後悔ばかりが残ります。もっとたくさん遊んであげればよかった。・・と。でも一番辛かったのは、三歳の誕生日を後回しにして、新しい首輪をつけてあげられなかったことです。友達にハッピーのことを何気なく聞かれ、「亡くなった」と一言告げるだけなのに、未だに胸が痛みます。私は事実から逃れようとしています。これからもこんな痛みを抱え、味わっていくのでしょうか。大切な何かを失ってから気付き、後悔し、背負っていくのはとても辛いことです。でも、このままでいいわけではない。ハッピーのために、自分のために立ち直らなくては、という思いがあります。ハッピーと過ごした日々があたたかい記憶であってほしいのに、私の心はそれを許してはくれません。二つの気持ちの狭間で悩み、苦しみ、もがくばかりです。なぜ自分を制御できないんだろう。きつと自分でも気付かない何かがあるのどこかに潜んでいるのかもしれない。それでも私はもう一度、自分の気持ちを立て直し、ハッピーの死を正面から受け止めようと思います。ハッピーに出会えたことに感謝し、彼の分まで生きていきたいです。

読書推進運動について

読書推進実行委員長 大野 年 司

「東京こども図書館」での研修

読書推進実行委員会は、主に市内の読み聞かせボランティアの皆様と共に読書推進を致しております。今年は少し切り口を変えて、都内にあります東京こども図書館に場所を移して、その見学と現地での研修会を執り行いました。



当日は二月六日の寒い日ではありましたが、読み聞かせグループ六団体と、市の図書館員様とで総員二十四名の参加を得ました。受け入れ側の収容人数に限りがあり、希望の方全員をご案内することが出来ず、残念でありましたが、参加者の皆様には、お一人お一人本当にお役に立ったと喜んで頂くことが出来ました。



この研修を通して、一人一人の子供達と、図書館職員さんが兄弟姉妹のような関係で、素晴らしい役割をしっかりと果たしている実態や、地域における民営のこども図書館の果たしている役割の大きさを直に感じ取ることが出来ました。その後、読み聞かせボランティア各グループの皆様と、当方実行委員会との意見交換会も開催し、今の課題、これからの方向性についてのご意見もお聞かせ頂きました。今後、こうしたボランティアの皆様とご一緒に、更に一歩踏み込んだ読書推進を図って参りますので、宜しくお願い申し上げます。

快適ガスライフ

サイカン工業株式会社

快適な環境づくりをめざして

(株)清水アーネット

進脩塾活動について

進脩塾主幹 田代敬二

進脩塾講座「孟子」について

平成二年に開講した本講座は今年二十三年を迎え、この十一月で一八八回を数えます。毎月第四土曜日の夜、商工センター四〇三会議室に於いて開かれますが毎回三十名前後の受講生を得て盛況です。



講師の荒井桂先生の博覧強記振り、驚くというより感動もので毎回「目からウロコ」の感を強くしております。

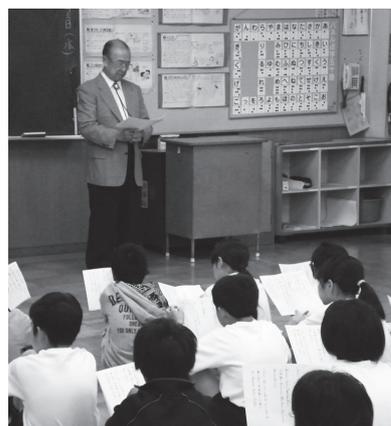
人間疎外の現代を生きるものとして、舜の大徳に学び、仁政の何たるかを知り、自己の小さな知恵や能力を挟まず、広い心をもって他人の知恵や能力を採用し、その上に人の善心を勧め助けて、一緒に道に向かつて進むべきであるという「孟子」に学んだ私たちの先人の足跡を辿って歩んでまいりたいと願っております。多数の方々の参加をお待ちしております。

忍藩子ども塾 素読教室

市教育委員会との共催事業として本素読教室は八年目を迎え本年は児童数四十六名で、初級組、中級一組、中級二組、上級組の四クラスに別れて毎月第一、第二、第三土曜日の午前中、行田市郷土博物館講座室に於いて開かれております。

本年から、この素読教室一期生（中学三年生）二期生（中学一年生）が戻ってきました。中級一組と中級二組の論語、漢詩の素読指導に当たってくれております。正に昔の寺子屋風景が現代に甦った感じで、微

笑ましくも頼もしい限りです。益々充実した素読教室に育てて参りたいと思っております。



埼玉小学校の論語・漢詩出前授業

平成二十四より始まった市立埼玉小学校（長原順子校長）の論語・漢



詩の素読出前授業は本年同校長転任の後を受けた後任の井澤一博校長に引き継がれ、忍郷友会より田代敬二・奥田七寿両指導員が出向し、毎週水曜日、朝八時十分より三十分までの二十分間、論語・漢詩の素読が行われている。

六年生1・2クラスを皮切りに、五年生、四年生、二年生、三年生、一年生と続き、六週間で一巡してこれが繰り返されることとなります。明年七月は第十二回全国藩校サミット行田大会が開催されますが、そ



の中での重要行事として素読発表があります。行田大会では、忍藩子ども塾々生及び埼玉小学校児童による二百名が舞台上で朗唱するという、今までの藩校サミットでは曾って無

第二回近藤棠軒先生顕彰の市民講座 「宋名臣言行録を読む」

忍藩儒近藤棠軒先生は寛政五年（一七九三）に江戸八町堀で生まれた。名は元隆、字は公盛、号は棠軒。家田大峯門下の清水赤城と親交があった。好学の士で成人すると市中の騒がしさを嫌い、上野山中に閑居して読書に努めた。博学で実証

かつた規模の大素読発表にしたいと思っております。
各位のご声援の程お願い申し上げます。

を旨とする著述に志した。文政七年（一八三四）、学識を認められ忍藩儒に招かれた。時の藩主は松平忠堯公。しかし生来の多病に加え刻苦勉勵の結果、体が衰え、翌八年（一八二五）世を去った。墓は行田市長野長久寺にある。
著述に「宋名臣言行録」があるが、殆どどの市民に馴染みの薄いところから昨年より、顕彰の為の講演会を開いている。

記

第二回 「宋名臣言行録を読む」
日時 平成二十五年六月二十二日
場所 行田市商工センター四〇一会議室
講師 早稲田大学名誉教授 村山 吉廣

プライミクス株式会社

社長 古市 實
社長 古市 尚



本社 〒553-0901 大阪府福島区海老江八丁目十六番四十三号
電話 (0)6-6458-7530
FAX (0)6-6458-7850
埼玉支社 〒350-0833 川越市芳野台二丁目八、四〇
東京支社 〒108-0023 東京都港区芝浦三丁目十六、四
名古屋支社 〒460-0008 名古屋市中区栄二丁目九番十六号
大阪支社 〒559-0009 大阪府福島区福島五丁目六番十六号

<http://www.primix.jp>

小山商事株式会社

会長 小山 博
社長 小山 喜一郎



本社 行田市埼玉三三五一
TEL 〇四八―五五九―四二二(代)
リカリツシュ旭町店
TEL 〇四八―五五六―三七二
リカリツシュ大井店(熊谷)
TEL 〇四八―五九九―四七二
宝くじ売場持田店
TEL 〇四八―五五三―四七二

平成二十五年 會員名簿

法人會員

- (株)シンセイ開発代表取締役
- (有)羽生モータースクール
- 医療法人 葦の会
- (株)確井測研
- (株)有斐園
- 小川工業(株)
- 大野建設(株)
- 税理士法人大久保会計
- 公認会計士
- (有)中央百貨店
- ガクヤ(株)
- 東旭(株)
- 小山商事(株)
- (株)清水アーネット
- ベルヴィアイトピア
- (株)協同バス
- 田代商事(株)
- 税理士法人森経理事務所
- (株)ファイブイズホーム
- (株)サンワックス
- (資)青美矢沢商店
- 山本商事(株)
- (株)行田セレモニー
- 渡辺(株)
- (株)行田ガーデン
- 山本食品工業(株)

- 新井 誠
- 五十幡和彦
- 石井 義則
- 確井 勝也
- 江草 忠敬
- 小川 雅以
- 大野 年司
- 大久保 毅
- 奥貫 健一
- 川辺 秀夫
- 小池 俊輔
- 小菅 克祥
- 小山 博
- 清水 龍男
- 清水 利一
- 鈴木 秀憲
- 田代 敬二
- 府川 吉延
- 細井 保雄
- 山田 晃
- 矢澤 大和
- 山本 憲作
- 横川 福治
- 渡邊 栄一
- 稲垣 功一
- 山本 正幸

正 会 員

- 秋山 佳子
- 飯島 千裕
- 五十嵐亥三生
- 石井 直彦
- 今津利之助
- 丑久保紀美
- 榎本 晃三
- 遠藤 初枝
- 大嶋 康三
- 岡田 則之
- 奥田 七寿
- 小澤 誠邦
- 香川 宏行
- 粕谷 悦昭
- 加藤 元三
- 鴨田 武
- 川島 亨
- 岸 誠太郎
- 木村 義
- 木元 絃一
- 栗原 毬子
- 小池 利昌
- 小島 敏男
- 小林 邦雄
- 小林 友明
- 岡田 博之
- 立花 正人
- 斎藤 慶一
- 斎藤 準一
- 坂本 光代
- 清水 利一
- 杉田 禮三
- 新井 友一
- 阿部 秀二郎
- 飯塚 正夫
- 井桁 浄継
- 伊藤 和江
- 岩田 讓啓
- 江原 史郎
- 遠藤 千枝子
- 及川 礼子
- 大澤 孝至
- 荻野谷麗子
- 奥貫 健一
- 小幡 和佑
- 柿沼 京子
- 片桐 章雄
- 加藤 誠一
- 川島 清実
- 川田 隆生
- 岸田 昌久
- 木村 忠夫
- 倉田 君子
- 宮崎 稔
- 小久保和子
- 小菅 恵一
- 小林 敏則
- 小山喜一郎
- 斎藤 恒
- 斎藤 敬子
- 坂田 孝男
- 清水 邦弘
- 羽田 邦弘
- 須郷 和美
- 新井 宏幸
- 新井 孝義
- 飯田 芳幸
- 石井 義則
- 今井 福司
- 植田 次郎
- 江草とみ子
- 大須賀伊司郎
- 大河原梅夫
- 岡 隆史
- 小川 秀樹
- 小澤光太郎
- 折井 幸子
- 柿沼 貴志
- 加藤 一夫
- 鹿山 高彦
- 川島 清
- 川鍋 重寿
- 木嶋 清
- 木村 洋子
- 倉田 耕市
- 小島 成一
- 小林 一好
- 小林 義和
- 斎藤 勲
- 斎藤 哲夫
- 坂田 幸彦
- 清水 威男
- 羽田 邦弘
- 須郷 隆

- 鈴木敬一郎
- 鈴木貞二郎
- 高橋 弘行
- 田島 正雄
- 田中 利幸
- 藤間 圭一
- 富田 久雄
- 長島 康雄
- 新島 璋記
- 野村 正幸
- 長谷川志づ枝
- 畠山 恒雄
- 半田 太
- 平社 輝男
- 二味 宏
- 細谷 茂樹
- 松本 健一
- 丸山 和雄
- 水野 武久
- 武笠 勇
- 最上正太郎
- 八木原 保
- 山田 映子
- 吉田 寿夫
- 横田 保良
- 渡辺 邦道
- 鈴木スイ子
- 鈴木 達哉
- 滝田 和夫
- 田代克太郎
- 棚沢 孝一
- 戸ヶ崎直司
- 中川 忠昭
- 中村 猛
- 野口 昭夫
- 橋本 祐一
- 長谷川盛雄
- 羽鳥 利明
- 東 美智子
- 府川 吉延
- 古市 恒裕
- 松平由美子
- 松本 皓一
- 三島 務
- 本図 則夫
- 村賀 英介
- 持田 朋春
- 梁瀬 里司
- 山田 晃
- 吉田 幸一
- 吉川 正就
- 渡辺 幸子
- 鈴木 寿子
- 関根 俊一
- 田島 博夫
- 武田 和則
- 津田 馨
- 富田 暁子
- 長島 豊
- 長野 武俊
- 野口 啓造
- 蓮見 牧子
- 畠山 貞子
- 羽鳥 弘
- 平井ユリ枝
- 藤倉 浩
- 古沢 勇治
- 町田 祥子
- 松本 安夫
- 水谷 良二
- 最上 絹江
- 森 安正
- 柳瀬とし子
- 吉田 豊彦
- 若松 良一

(平成二十五年十一月三十一日現在)

平成二十五年度 事業行事経過メモ

1 会議

(一) 総 会

① 定時総会開催

(公務報告、講演会・懇親会)

日 時 平成二十五年六月二日(日)

参加者八十五名

午後二時～午後八時

会 場 行田市・ベルヴィアイトピア
来 賓

行田市長

工藤 正司様

衆議院議員

野中 厚様

埼玉県議会議員

鈴木 聖二様

行田市議会副議長

東 美智子様

前人事院総裁

江利川 毅様

行田市教育委員会委員長

岸田 昌久様

行田市長代理教育長

中村 猛様

行田商工会議所名誉会頭

鈴木 秀憲様

行田商工会議所会頭

小川 雅以様

行田商工会議所副会頭

細井 保雄様

漢字文化振興協会事務局長(講師)

白石 宗靖様

行田ロータリークラブ会長

古沢 勇治様

行田さくらロータリークラブ会長

島崎 義春様

行田青年会議所理事長代理

後藤 巧様

旧忍藩主阿部家二十二代ご当主

阿部 正靖様

松平忠昌議長より平成二十四年度の事業および決算、監査について報告があった

記念講演

「全国藩校サミットの成り立ち」

講師 白石 宗靖 様

(漢字文化振興協会事務局長)

(二) 役員会

① 理事・監事合同準備会

日 時 平成二十五年四月十六日(火)

午後二時三十分～四時三十分

会 場 行田本部事務所 会議室

審議事項

1 平成二十四年度事業報告書

(案) について審議

2 平成二十四年度収支決算書

(案) について審議

3 平成二十四年度の事業・決算

に係わる監査

4 平成二十五年六月二日(日)

総会開催について

5 その他

定時総会日に開催される理事
会・評議員会に提案する審議事項
並びに総会報告事項の決定、総会
の運営進行等について打ち合わせ

② 理事・監事会、評議員会

日 時 平成二十五年六月二日(日)

午後二時～三時二十分

会 場 ベルヴィアイトピア

審議事項

1 平成二十四年度の事業報告が

なされ審議・承認

2 平成二十四年度の決算報告が

なされ審議・承認

3 平成二十四年度の事業に係わ

る監査報告

4 その他

③ 評議員会

日 時 平成二十五年十一月十二日(火)

午後三時～四時五十分

会 場 ベルヴィアイトピア

審議事項

1 平成二十六年事業計画(案)

について

A、「進脩塾」事業計画案につ

いて審議・承認

B、「浮城のまち行田少年の主

張大会」事業計画案につ

いて審議・承認

C、「読書推進実行委員会」事

業計画案について審議・承認

2 平成二十六年度予算(案)に

ついて審議・承認

3 平成二十六年一月の総会・賀

正会の日程について

小山博事務局長より平成二十

六年一月二十五日(土)に開催し
たいとの提案があり審議
4 決算総会日程決定について
小山博事務局長より平成二十
六年六月十五日(日)に開催した
いとの提案があり審議

2 教育奨励事業

I 進脩塾活動

① 公開講座

日 時 平成二十五年六月二十二日(土)

午後三時～四時三十分

会 場 行田市商工センター104-1

会議室

講 師 村山吉廣先生(早稲田大

学名誉教授)

『近藤栄軒先生の宋名臣言行録を読む』

受講者 一八〇名

② 定例講座

四月「孟子」荒井 桂先生

五月「孟子」田代 敬二先生

八月「孟子」荒井 桂先生

九月「孟子」荒井 桂先生

十月「孟子」荒井 桂先生

十一月「孟子」荒井 桂先生

※行田ケーブルテレビにて放映

(内容) 進脩塾の目的、講義、

受講者の感想、今日の論語から

③ 忍藩子ども塾素読教室の開催

日 時 毎月第一、第二、第三土

曜日 午前九時三十分～

十一時三十分

場 所 行田市郷土博物館講座室

受講者 行田市内低学年児童(四

講 師 才(八才まで) 四十七名
 田代敬二、奥田七寿、川田隆生先生
 内 容 論語・漢詩・古事記の学習

④ 東京支部素読教室開催
 (二十三年五月より)

日 時 毎月一回土曜日 午後二時～三時三十分
 場 所 天眼寺(東京上野)
 受講者 天眼寺関係者 十三名
 講 師 田代敬二、奥田七寿、川田隆生先生
 内 容 論語・漢詩の学習

⑤ 漢文検定試験の実施

日 時 平成二十五年十一月二十三日(土) 午前九時～午後三時
 場 所 行田市郷土博物館講座室
 受験者 三十二名(寺子屋の部初級、中級、上級)

⑥ 出前出張授業

行田市立埼玉小学校
 日 時 毎週水曜日 十四回実施

Ⅱ 「第二十六回・浮城のまち行田少年の主張大会」優秀者表彰

日 時 平成二十五年十一月十七日(日) 午後一時十五分～四時三十分
 会 場 行田市教育文化センター「みらい」ホール
 発表者 市内小・中学校児童・生徒、父兄等二五〇名参加
 本会、松平 忠昌 会長よ

り記念品を贈呈した。

Ⅲ 読書推進学習会

・読み聞かせボランティアとの懇談会
 日 時 平成二十五年四月二十五日(木) 午後一時三十分～三時三十分
 会 場 行田市商工センター402会議室
 出席者 十七名

4 会報70号の発行

会報七十号を平成二十五年十二月一日に発行
 全会員、市内各小、中、高校、幼稚員、保育園及び素読教室関係者に配付

5 慶 弔

永沼 督一郎様
 (平成二十五年十月二十一日ご逝去)

6 会員増強対策

新入会者紹介(敬称略 入会順)
 紹介者(坂本 光代)
 ・吉田 春代
 行田市酒巻一八六四
 社団法人行田法人会
 紹介者(小山 博)
 ・島崎 政敏
 行田市桜町一―二二―一四
 島崎木材(株) 代表取締役
 紹介者(及川 礼子)
 ・柿沼 貴代
 行田市若小玉二三七〇
 大日本茶道学会 茶道教授

紹介者(永島 健雄)

・河原 孝子

行田市門井町二―四―一五

草月流華道教授

・滝澤 布沙

行田市長野三一五―四一

埼玉県女流工芸作家協会 会長

紹介者(渡邊榮一、小山 博)

・安部 節子

羽生市上新郷五六四二―二

元行田市立図書館 館長

紹介者(矢澤 大和)

・早崎 敬

行田市谷郷四六九―七

(有)早崎ルーフ工業 代表取締役

・大谷 文孝

(株)メンズオータニ 代表取締役

紹介者(清水 龍男)

・小松 和弘

(株)武蔵野ユニフォーム 代表取締役

紹介者(小山 博、清水威男)

・世川 祐多
 東京都墨田区両国二―一〇―四〇五
 国立パリ第七大学院生

・根岸 友憲

熊谷市青山一五二

(有)榎園商事 代表取締役

紹介者(矢澤 大和)

・藤倉 武

株協同バス 代表取締役

合計 十二名

川 柳



小澤 誠邦

恩讐を越えて心を広く持つ
 清い引き際だけが誉められて
 その内に生まれそうだな長生き税
 落ちこぼれ育て方では花も咲く
 福の神あなたの扉明けてある
 残り火に嵐よ吹くなまだ八十路
 終電車ひとりぼっちの虎が吠え
 正論を吐けば世間がせまくなる
 泣き事は書かない男の日記帖
 二人乗り車椅子が欲しくなる



第11回 全国藩校サミット鹿児島大会にて

第十二回全国藩校サミット行田大会特集

平成二十六年七月行田市で開催

「藩校教育の理念を今に」

第十二回全国藩校サミット

行田大会が始まりました

藩校サミット協力委員会

委員長 矢澤 大和

第十二回全国藩校サミット行田大会実行委員会設立準備会が、工藤正司行田市長と松平忠昌会長（第十六代藩主）の連名の呼びかけで、平成二十五年九月二十五日開催されました。当日は、会場の行田市商工センター四〇一会議室に呼びかけたほとんどの団体の参加をいただきました。参加数の多さからも、藩校サミットに対する各団体の興味、期待度がかがわれ、身の引き締まる思いです。呼びかけのお二方よりご挨拶を頂戴し、藩校サミットに対する意識の共有のため、藩校サミットの説明を本会

渡辺栄一副会長、小山博事務局長が行いました。議事に入り、本大会の開催趣意書、開催要項を承認。実行委員会を設立するために、別紙の様に大会役員、顧問、また松平忠昌会長を実行委員長に実行委員、実行委員会の協力委員の承認をいただきました。協力委員の皆様には、側面からご協力いただくわけですが、実行委員の皆様には、積極的に職務を遂行して頂かなくてはなりません。別紙をご覧くださいますように、ほとんど



の実行委員さんは、本会会員です。非常に心強く思います。この実行委員さんに本会藩校サミット協力委員の皆様のご協力を頂き、第十二回全国藩校サミット行田大会を是非成功させたいと思っております。

また、後にも先にも初めての事ですので、予想もつかない事が生じるかもしれない。このような時、本会藩校サミット協力委員以外の皆様にもご協力を戴くお願いをしなくてはならないと思います。その節には、よろしくお願いいたします。

十月二十四日に第二回実行委員会が開催されました。本サミットの意義、コンセプト、スローガン、プログラムなどの概要などが検討・決定されました。

組織については、実行委員会の中の3専門部会を以下の様に決定されました。

企画広報部会
接待交流部会
総務部会

まだまだ流動的な部分が沢山ございます。この報告が総てではありません。柔軟に対応してゆきたいとおもいます。ご理解、ご協力をお願いいたします。

小見出しにも書きましたが、行田大会は、既に始まっています。七月五・六日だけがサミットではありません。準備段階の今日、今も、第十二回全国藩校サミット行田大会のステージなのです。

藩校サミットの意義とこれ迄の経過

田代 敬 二

幕末から明治にかけて日本を訪れた、外国からの旅行者や政治家が、

都市のみならずいかなる山間僻地においても見る事ができた日本人の風俗とは、礼儀正しく、親切で正直、謙虚で素直、感謝、助け合い、ゆづり合いといった秩序正しい、世界でも類の無い温和で平和な暮らしぶり

でした。

これらによって来る源は、藩校教育を頂点にした郷校、私塾、寺子屋など徳目を主眼とした教育のしからしむるものであったとは識者の一致した見方でもあります。さて現在とは異なる隔世の感と言わざるを云えませぬ。



「藩校教育を現代に活かす教育の在り方を考える」藩校サミットの意義とは此の処にあるわけです。同憂の志をもった藩校関係者が集い互いに連携して新しい時代の文化創造に資することを目指して、平成十四年に東京都の湯島聖堂を皮切りに会津藩・佐賀藩・備前松山藩・高遠藩・庄内藩・熊本藩・長岡藩・松江藩・水戸藩・鹿児島藩と続き、いよいよ第十二回大会は忍藩行田市となった次第です。

開催日は平成二十六年七月五日・六日と決定し、大会実行委員長には



松平忠昌（郷友会々長）が就任、準備活動がスタートしました。本郷友会内にも藩校サミット協力委員会（矢澤大和委員長）が発足しましたが、進展に伴い新しくご協力を頂く場面も生じてまいる事もあるうかと存じますが、その節はよろしくお願い申し上げます。

行田市民総意のおもてなしの心で行田大会を成功させたいと念ずるものです。

忍藩の歴史と忍郷友会

副会長 渡邊 栄 一

来年全国藩校サミット行田大会の開催が七月五日に決まり、その開催の重要な役目を担うことになった忍郷友会の会報が、今回は「藩校サミット特集号」を編集する事となり、私に与えられたテーマは余りにも壮大過ぎて学者でも文人でもない平凡な一会員の人間にとつては荷が重過ぎて毎日溜息をついているうちに、原稿提出の締めきり日が来てしまいました。事務局長からお叱りを受けなせもっと早く御断りをしなかつたかと後悔しています。

江戸時代から明治、大正時代にかけての日本の近代史は、世界にもその類を見ない中世の鎖国時代から一気に近代国家、世界の強国になった日本がまさに国威の奇跡的な飛躍発展を成し遂げた時代であります。最近の学校教育や生涯教育ではこの時代の歴史教育が誠に不甲斐ない状態であることに憤りさえ感じています。特に戦後教育のボーダレスとも言える学力偏重で徳性、宗教、漢学、人間力これらのベースになっている歴史教育等が軽視された結果、今や先記の時代とは隔世の感のある社会に

なりつつあるといっても過言ではないと思います。

そこで今私達会員は先ず現状容認するだけでなく、第一に一人でも多くの市民に藩校教育の核心でもあった明治の国難を救った数多くのリーダーが、学び会得していた「人間力」をこれからどう復活していくかのヒントを考えながら使命感をもって能動的に啓発していくことが大切かと思えます。

先日惜しまれて亡くなった日本プロ野球界、延いては日本のスポーツ



振興の第一人者とも言える川上哲治氏は現役時代「野球選手である前にまず良き市民即ち人間力や社会性を持った人間であることが大事なことだ」と終始言っておられたことは正に神様の名言であります。

第二に私達の郷土が如何に誇れる町であったか、この際思い興すことが大切ではないでしょうか。私達人間は誇りと目標を持った時初めて良い仕事が出来たり発想が出てきたりします。

ここで私達の郷土の誇りに繋がる歴史的事蹟について少々述べてみたいと思えます。

忍藩の歴史

先日来全国的にヒットした映画「のぼうの城」で思い出す水攻めの結果、忍城は落城はしなかつたものの結局は開城しました。その後覇者の豊臣秀吉の死去の結果、天下は徳川家康に移りました。天正十八年、徳川家康の入府で松平乗忠が一万石で忍城に入封とありますが定かではありません。

その後家康の四男で幼年の松平忠吉が十万石で忍城に入り、次いで松平家忠が水攻めで荒廃した忍城と城下町を修築しました。後に家忠は下総国に移され、再度若年の忠吉は家老の小笠原吉次の政務代行により兵

農分離、家臣団編成、新田開発、利根川の治水工事等を行いました。後に慶長五年関ヶ原の戦いで武功をあげ尾張藩五十二万石に増封されました。

その後しばらく忍藩は廃されて天領となり、代官の伊奈忠次や大河内久綱らが治めました。

寛永十年松平信綱（久綱の子）が三万石で入りました。その後信綱は老中に昇進して鳥原の乱鎮圧では総大将として幕府軍を率いて出陣、乱を鎮圧し、寛永十六年にはその武功により川越藩六万石に増封されました。

代わって信綱と同じく徳川家光の小姓から後に老中にまで栄進した阿部忠秋が五万石で壬生から入りました。

信綱、忠秋が相次いで老中に就任した結果、忍藩は「老中の藩」として政治的、軍事的にも幕府の重要拠点としてみなされるようになりましたが、これが逆に藩主家の経費増加にもつながり、次第に忍藩の年貢は重くなつていったとも言われています。忠秋はその後何度か増封され八万石を領する大名になりました。

その後阿部氏は九代一八四四年間忍藩主を務め、文政六年（一八二三年）正権の時白河藩へ移封となりました。当時は十万石でした。

この間歴代藩主は、五人が幕府老



中を務めたほか京都所司代、大坂城代等の要職を歴任しました。内政面では忍城の修復、城下町の整備、家臣団の規律制定、度々起きた大洪水対策、浅間山噴火と大飢饉対策、二度に亘る藩内一揆の鎮静化等で藩財政は度々逼迫しておりました。

代わって、文政六年（一八二三）に桑名藩より奥平松平忠堯が十萬石で入りました。奥平松平家の始祖は徳川家康の娘亀姫が嫁いだ奥平信昌の四男忠明でした。忠堯の時代に藩校「進脩館」が設立されました。

第三代藩主忠国（奥平松平家十一代）は所領十萬石のうち五萬石を上総・安房に移されたため異国船の警備を任じられ、時に房総半島沿岸警備から江戸湾お台場の警備などに当

たっていました。武蔵においては安政の大地震と大洪水で領内が大被害を受けた事などにより藩の財政は常に逼迫状態であったといわれています。

慶応三年の大政奉還後、第四代藩主忠誠は帰趨に迷ったが前藩主忠国の登場もあって新政府側に与するこ

とに決し、戊辰戦争に際し忍藩は東北に出陣しました。明治四年の廃藩置県で忍藩は廃藩、代わって忍県が設置されましたが三ヶ月後の明治四年埼玉県が発足統合されました。第五代忠敬まで五人の藩主が七十七年間統治しました。最後の禄高は十萬石でした。

忍郷友会の創立

明治三十八年（一九〇五年）十月二十二日東京向島百花園で第一回の集会が開催され、下記の設立主旨を踏まえて忍郷友会が発足しました。

記録によれば、この日偶々日本海大海戦で大勝利を収めた東郷海軍大將凱旋の日ということで松平忠寿夫妻を始め八十余名が出席、会食の後、余興として謡曲、仕舞、狂言、画伯の席画等がありました。秋最中の一

日を楽しんだとあります。

出席した設立主唱者には次のような方々が居りました。松平氏（旧藩主）、伊藤氏（本人間郡長）、林氏（東京地裁判事）、金沢氏（医師）、

高木氏（弁護士）、益田氏（日本画家）、小林氏（日本画家）、江草氏（有斐閣主）、笹岡氏（会計検査院検査官）、湯浅氏（総大学生）

島氏（日本銀行員）

明治三十八年十二月発行の「忍郷友会々報」第一号に記載されている「本会の設立」目的の中で「士族のほか忍に所縁の一般の人達も参加して、交流を深めることとなり、会員相互の親睦、個人の智徳の涵養を目指しながら、最初は東京に遊学する忍の学生の援助をする等、後継者の育成と郷土の文化の発展にも意を尽くして年月を重ねていきます」とあります。

時は流れ平成十七年発行の（財）忍郷友会創立百周年記念誌の中で元行田市郷土博物館学芸員の塚田良道氏は会報四十号の表紙に記載された林頼三郎会長の挨拶として、「世上動もすれば、殊に最近の風潮からこういつた会を因習に囚われたもの、時代に逆行するもの等の批判を加うる向きもありますが、己の故郷を愛し、己の住む地の発展繁栄を希うの情は人間本来の自然の情であります」と記事を紹介して本会の目的が毅然たるものであることを述べています。

創立百周年を迎える

平成十七年十月二十二日行田市

において財団法人忍郷友会の創立一〇〇周年記念式典が開催されました。来賓には埼玉県知事上田清氏、徳川宗家第十八代当主徳川恒孝氏ら多数の方が見えられ盛大に賑々しく開催されました。

記念講演として徳川恒孝氏から「江戸二五〇年の泰平を支えた仕組み」、東京都庭園美術館主任学芸員の岡塚章子氏から「写真の機能と有用性を熟知していた人物〈小川一真〉」と題して国家の歴史や郷土が輩出した偉人に因んだ講演がありました。

来賓各位からは本会の業績について敬意と賞賛の祝辞を多数いただき恐縮しました。

その業績の中から一部を紹介し、すと、青少年育成のための三端懇話会の開催、少年の主張大会の後援、読書推進運動の為の読み聞かせボランティアスキルアップの講演会の開催、学校図書への寄贈、論語素読教室の開催、論語かるた大会等何れも継続型の事業です。

一般市民向けには論語教室の開催、記念植樹（桜）の実施、各種講演会の開催等です。

これを総合的に見れば「人の掘り起こし、人づくりの支援活動、そして会員の親睦交流ではないでしょうか。忍郷友会は本年創立一〇八周年を迎えます。

藩校サミットを私達の手で成功させよう

藩校サミット実行委員会実行委員長代理

鈴木 秀 憲

本年三月、鹿児島にて開催された第十一回全国藩校サミットに於いて、第十二回大会を来年七月五日に行田市に於いて開催する事が発表されました。

主催は、漢字文化振興協会（会長 石川忠久氏）ですが、その設営等一切を開催地が行います。大会の性格上、行田市が全面的に行う事は出来ない為、民間特に忍郷友会が中心となって、行わなくてはなりません。

大会役員には、上田県知事・鈴木県議会議員・工藤市長・香川市議会議長・小川商工会議所会頭・岸田教育委員長・石川漢字文化振興協会会長が名を連ね、実行委員長には松平忠昌（奥平松平家代十六代当主）忍郷友会会長が、就任する事になりました。

藩校は、特に江戸後期に幕府から各藩へその設立を奨励され、各藩が積極的に子弟教育の要としてその運営に努力し、幾多の優秀な人材を輩出するようになりました。後に、藩幕体制崩壊により藩校は消滅しましたが、名前や形が代わっても、各地に於いて藩校教育の精神は今日に受け継がれ活かされております。

十年程前から、この各地にて藩校を受け継ぐ人達や団体が相集い藩校サミットが開催されるようになり、来年行田にて行われる大会は第十二回全国藩校サミットとなります。

忍藩の藩校は云うまでもなく進脩館であり、進脩館は一七九八年、松平忠和の手によって桑名にて開学されました。三方領知替えにより



松江夫会

一八二三年松平氏は忍の地へ移転すると、藩主松平忠堯は新たに進脩館を開学しました。当初開学に尽力した近藤栄軒氏が病没した後、幕府からの推薦で芳川波山が着任、一八二五年に進脩館を開学します。扱、当地で行われるサミットについて松平会長は
一、行田らしさを出したい。
二、次の大会へつなげられる大会にしたい。と仰っています。

これを受けて、実行委員会では、忍郷友会藩校サミット協力委員会（矢澤大和委員長）のご協力を得て、第一部で①藩主会議②藩校会議③研修会（講師・加地伸行氏）を開催し、第二部の大会は、大会式典及び講演会・素読教室大会を行う事を計画しています。講演会は忍藩の歴史（仮題）として女性講師 神田紅



氏に幕末の忍藩について、楽しく解り易くお話し頂き、素読教室では小学生二〇〇名による論語の朗誦を披露頂く予定です。

藩校サミットは、翌日のエクスカッション（外来者に行田の紹介）を含めて二日間で終わってしまいますが、大切な事は、この機会に私達は、先人が作った藩校の教育理念を勉強し、重ねて往時の歴史に触れ、仮に外来者から説明を求められたらお話し出来る様になる事と考えています。そしてこの事は、忍郷友会会員のみならず広く市民へ伝えたいと考えています。会員各位の強い関心とご協力をお願い致します。

忍藩の先見的教育と人材 （忍藩洋学校教官 青木輔清）

さいたま文学館主幹 若松良一

いま私の手元に、『横文字獨學 英学部初編』と題する小冊子がある。明治四年（一八七二）晩春に青木輔清が著したもので、内題に忍藩洋学校蔵とある。アルファベットと洋数字の綴り方及び読み方を解説した英語の初歩的な教本である。この本の優れているのは、英語の音節が子音と母音の組み合わせで構成されていることを丁寧に説明していることであり、五十音の表には、例えば、



エモにウエのようなルビを付している。青木の創案かどうかはわからないが、英語の発音を日本語で表記する工夫として評価できる。

緒言には、忍藩洋学校で洋学を学ぶ生徒は数百人に及び、農商の子弟で来学する者も少なくないと記されている。この洋学校とは、芳川波山の子である春濤が教官となって、明治元年十一月に沼橋門外の隠居所に開校した忍藩の学校である。洋学は安政元年（一八五四）以降、諸外国との条約締結・外交開始にともなって急務となり、これまで儒教と武道教育一辺倒であった各藩校にも教科として加えられる場合が少なくなかった。しかし、独立した洋学館を構えたのは、名古屋藩（六二万石）、津藩（三二万石）、広島藩（四二万石）、和歌山藩（五五万石）、徳島藩（二五万石）、高知藩（二四万石）、柳川藩（二二万石）、熊本藩（五四万石）、鹿児島藩（七七万石）などの十数藩に限られている。忍藩の先見の明と教育に対する姿勢が反映されている。

さて、『横文字獨學 英学部初編』の著者で、洋学館の教官であった青木輔清はどのような人物であったのか。遺された史料によれば、通称は円治で、茂庵後に東江と号した。弘化年間に忍藩が房総の海岸警備に当たっていた頃、上総の富津御陣屋表にて御抱となり、嘉永六年に忍藩から医師の身分を与えられ、拾五人扶持を給された。芳川波山の子春濤に師事して洋学を学んだが、忍藩が勤王に決し、西軍に属すると、慶応四年春には忍藩探索方を勤めた。その後、忍藩洋学館の教官となり、明治三年に洋学館が東京の藩邸内に移ると、浜町に住み、東京府平民を名乗った。もともと士分ではなかったの

が誕生し、忍県が廃止されると、忍の人々は忍県学校を母体にして高等教育機関を設けることを希望していたが、明治五年八月、新政府によって学制が頒布されると、その夢は潰えた。国家による教育統制の時代となったのである。このため、進学を希望する旧忍藩士の子弟たちは、明治七年、浦和に開学した埼玉県師範学校に集り、「師範学校は忍藩の学校」といわしめる状況を呈した。師範学校卒業生の多くは教員となったが、のちに官吏や地方首長に転じた者、実業家となった者も少なくなかった。そのいっぽうで、忍県学校の教官達は再就職先に恵まれず、総じて不遇であった。

であろう。また、廃藩置県の際、明治四年七月に忍県学校が設立されると、その教官となった。

（参考文献 長谷川宏「青木輔清の履歴と著作について」郷土博物館研究報告第四集・埼玉県『埼玉県史』資料編二五・埼玉県教育委員会『埼玉県教育史』第三巻）

故長谷川宏氏の研究に拠れば、明治四年から十五年にかけて、合計六〇冊余りの有用書を著している。著作を分類すると語学本、洋学啓蒙本、初等教科書、辞典、時事報知物、実用書などに及んでいる。明治三九年には出羽銀行の勸業貯蓄債券の月賦販売を行っていた。明治四二年一月六日に死亡したが、生年不明のため、没年齢は不明である。時代の変革とはまことに残酷なものである。明治四年一月に埼玉県

天祥院殿奉讃会よりの寄附について

忍藩松平家の菩提寺である天祥寺を昭和四十六年から再建に努めてきました

天祥院奉讃会の設立当初からの発起人である「佐藤孝太郎翁」よりお申し出があり、「二〇一二年」から一〇〇万円の寄附を受け、「二〇一三年」も同額の寄附を頂きました。

公益法人移行認可の取得経過について

平成二十年に制定されました法人法の改正に伴い、当会が現行の特例財団法人から新たに公益財団法人として移行設立しなければならぬ状況にありました事は、皆様もご存じの通りであります。

二十五年八月十五日、内閣府（公益等認定委員会）に電子申請を行いましたから約三ヶ月掛って作業が完了しました（申請期限であった「二十五年十一月三十日」までには、問題なく申請が済んでいた訳ですが、その後の修正指摘事項の解消作業に時間を要した次第）。目下の処は、無事に認可に向けての審議に入っている状況です。

佐藤孝太郎翁は、当会の名誉理事を勤めておられ、当会の活動に多大な貢献をされて来られた方であります。本年には、「一〇二歳」という長寿を迎えられますので、皆様と共に同翁のご健勝を祈念したく存じます。

尚、当該認可を受ける日は、決算との関係で、本年三月として「四月一日」からの定款施行を考えています。

また、それまでの作業は、「最初の評議員選出」であり、認可を受領次第「さいたま法務局への登記」を実施する事になり、正式に公益財団法人として発足します。当会の正式名称は、「公益財団法人 忍郷友会」となります。

公益財団法人忍郷友会

会長 松平 忠昌

漢文検定試験について

漢文は日本文化の根幹をなすものです。和歌も物語も日記も随筆も、紫式部も清少納言も芭蕉も漱石も、基礎に漢文があるのです。漢文を学ぶことの重要性は論を待ちません。まず論語や漢詩の魅力に触れて、少しでも多くの方々に、日本人の心の故郷を訪ねて頂きたいと思うものです。「漢文検定」がその契機になることを、ひとえに願うものです。

―湯島聖堂の漢文検定の意義より―
寺子屋編

論語初級（三級）試験管の前で朗唱する
漢詩初級（三級）試験管の前で朗唱する

藩校サミット予習講座開催

「教化は国家の政治の中で最優先。最重要視せねばならぬ事項であり、国の民の風俗がどうなっているかは天下の大事である。」といいますが、何がどのよう大事であるかについて、藩校教育とはいかなるものであったかを知る上で眼目になるテーマになると考え、「学記」を読むの特別講座を開いたものです。

日時 平成二十五年十月二十六日(土)

論語初級（二級）朗唱と筆記試験
漢詩初級（二級）朗唱と筆記試験
論語初級（上級）筆記試験のみ
漢詩初級（上級）筆記試験のみ
寺子屋修了試験（初段）筆記試験のみ

平成二十五年度の忍藩子ども熟素読教室からの受験者は
論語初級 六名、論語中級二十一名
論語上級 二名、漢詩初級 六名
漢詩中級 二十一名、漢詩上級 二名
修了試験 二名の合計六十名が挑戦しますが全員合格を果たすものと信じて居ります。

午後三時～五時まで

場所 行田市商工センター四〇三 会議室

演題 子弟は藩校で何を学んだか

―「教化は国家の急務なり」―
―「学記」を読む―

講師 荒井 桂先生

※当日は五十四名の聴衆を得て満席の状況でした。この模様講座は後日行田ケーブルテレビにて放映される予定です。

俳句

特別寄稿

木嶋 斗川

春の雷利根より我が家直撃す
 春霞のぼうの城を守るかに
 夕がすみ古墳の歴史隠したり
 城沼のさざ波照らす落花かな
 天の川支流も光る城下町
 大利根の橋渡り来て夜店の灯
 雷鳴下利根の渡船の揺れに揺れ
 太陽の色濃く沈む終戦日
 満月の利根に眠れる渡し船
 敬老日兄弟姉妹父母も無く



短歌

清水 孝男

道ひらき千古の夢を解き放し
 せせらぎの持てなし享けぬ夏座敷
 虫の夜の書庫に探すは古書古事記

木嶋 清

春陽さす壁に名句のカレンダー
 百姓の性は消し得ず昨日今日
 七変化北鎌倉の寺の庭
 昔を偲ぶテレビの中に
 快晴の土用三郎畑仕事
 我が家を巡る蟬の時雨よ
 奇北翁の歳に達せり大利根の
 野辺に句を吐き歌を謡は

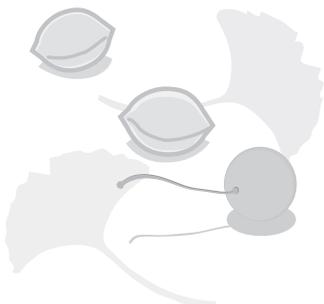


平井ユリ枝

いさぎよく締念するも遠花火
 ゆかたに着替え姿見うつつ
 まだまだと老ひを忘れて紅をさし
 花の便りに友を訪ねて
 内線の絶えぬ異国に住ふ友
 生きぬくすべを笑顔にかくし

榎本 晃三

あの人とは思秋期のかぜよみがえる
 とほひ昔の薔薇とリキユール
 犬つれし初老の愁い追分けの
 碑文のあたり夕もやのなか
 チョイわるな老いパロディに決めてみる
 酒と女と「モン・カシエート」





埼玉古墳

城下町望む古墳の飛花落花
神話秘む古墳を抜くる青嵐
古墳から古墳へ登る秋日和

齊藤 勲

梅雨寒に羽織る袖口ほつれをり
花疲れ見知らぬ人と椅子に座す
風化せし破顔羅漢に木の実降る

鈴木スイ子

夢やぶれ笑う己に春が舞う
倅せの零れるほどの秋ふたり
秋風に君のにおいが降りてくる

折井 幸子

人けなき枯山水を夏の蝶
七五三われも締めたる帯をしめ
今花が盛りと友のメールかな

平井ユリ枝

尾根の道涼しげな音と遠かりし
漆黒の溪に螢の御霊あり
おじさいや心の様の常ならず

阿部秀二郎

一輪を生けてもてなす夏座敷
髪揺るる小町通りは初夏の風
仏壇に日差し届きて梨ふたつ

遠藤 初枝

秋霜に発破かけられ半寿もゆ
散るもみぢ残生の彩もえつくし
木枯らしや偕老同穴まぼろしに

榎本 晃三

お世話になりました

前事務職 遠藤 初枝



本年三月
三十一日付けを
もって財団法人
忍郷友会の事務
職を退任させて
頂きました。

東京事務所からこの行田に、事務
所が移った平成十九年四月から六年
間、この歴史と伝統のある忍郷友会
の事務職として、松平会長を始め、
皆様とご一緒にお仕事ができたこと
を、とても誇りに思っております。
また、未熟な私を温かくサポート
して頂き、今日まで無事に責任を果

お世話になります

清水 威男



本年四月一日
から財団法人忍
郷友会事務局で
勤務させて頂い
ております。

たせたことを、心から皆様に感謝申
し上げたいと思います。有難うござ
いました。

来年二十六年七月には、忍郷友会
創立百数年の歴史の集大成とも言え
る「第十二回全国藩校サミット行
田大会」が開催されます。会員とし
て行田市民と共にこの名譽ある大会
が、格調高く盛大に開催されること
を願わずにはられません。

これからも一会員として、この伝
統ある忍郷友会がますます発展され
ますように、微力ながら尽くしてい
きたいと思っておりますので、これ
からもよろしくお願い致します。
会員の皆様、六年間大変お世話に
なりました。そして有難うございま
した。

前任者の遠藤初枝氏の仕事を踏襲
しながら、歴史と伝統のある忍郷友
会職員として、責任を果たしていく
所存です。

松平会長を始め会員相互の親睦及
び地域の発展と文化の向上のため、
微力ではありますが事務職員として係
わる事が出来ることを感謝申し上げ
ます。

(勤務日 毎週月・木曜日の午前十
時から午後四時)



武蔵の国が生んだ歴史ヒロイン
忍城・甲斐姫を大河ドラマに!

「甲斐姫物語」出版を祝う会

「甲斐姫物語」出版を祝う会実行委員会

実行委員長 細井保雄

小説・映画で「のぼうの城」が大ヒットし、行田市の浮き城・忍城が注目されています。この勢いが続けばよいなあと思っていた折、以前より

地元で愛されている、忍城水攻めを打ち破ったヒロイン甲斐姫を主人公とした小説「甲斐姫物語」が出版されると聞きました。「甲斐姫物語」の著者は歴女ブームを起した一人でもある埼玉県在住の山名美和子氏、昨年埼玉新聞に連載していた「甲斐姫翔ける、あかね色の道」を大幅加筆して鳳書院からの刊行です。

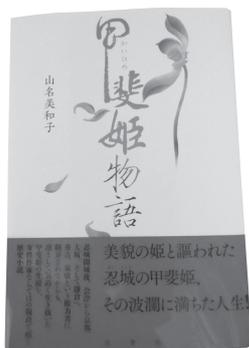
ゲーム「戦国無双」などで若者にも甲斐姫の名が知られている今、この「甲斐姫物語」の出版を祝う会を、行田で地元が主体となって行うことにより「浮き城のまち行田」のまちづくりに寄与しようと実施

しました。実行委員会には毎年合同例会をおこなっている行田ロータリークラブ、行田ライオンズクラブ、行田さくらロータリークラブに(社)行田青年会議所、忍城甲斐姫研究会に参加していただきました。行田市民大学、埼玉浮き城プロバスクラブ他多くの方々にご協力いただきました。

九月二十七日、発起人の一人である行田市長をはじめ二〇〇名を超える参加者がありました。第一部では著者の山名美和子氏の「戦国の女たち」と題した記念講演、第二部は出版記念パーティ。雅楽の演奏や「忍城おもてなし甲冑隊」による演武が披露されました。

この本の表紙にある蓮の絵は、行田市の女流工芸家の滝澤布紗さんの作品からとったものです。あらすじを少しだけ述べます。忍城主、成田氏長には男子がなく文武に優れた長女甲斐姫は領民を慈しむ次代のおんな主として慕われます。幼くして母と生き別れ繊細なところもあります。母方の女傑の祖母に似てたくましく、そして東国一の美女と謳われます。そんな魅力的な甲斐姫が活躍する物語です。あらすじを述べるなんて野暮はやめましょう。みなさん、是非本を手にとって読んでみてください。おもしろいです。

甲斐姫は忍(行田)から会津、京都、大阪、鎌倉へと活躍の場が変わります。時代は華やかな安土桃山から江戸初期、大河ドラマ向きではありませんか。みなさん!「甲斐姫物語」を読んでみて、よろしかったら共に大河ドラマをめざしませんか?



「公益法人への対応について」

法人に対する法律が改正となり、平成二十五年十一月三十日迄に新法対応の公益法人申請書を提出し、認可を受ける事が必須条件であります。

平成二十二年六月の評議員会にて新法対応に係る承認を受けて以来、監督官庁である文部科学省のガイドも受けて準備を進めておりますので、現況につき 以下の通りご報告します…

1. 寄附行為…

- (1) 明治三十八年（一九〇五年）の発足以来の「寄附行為」（新法では定款）を改訂し、平成二十四年八月二十九日付で文部科学大臣の認可を取得しました。改訂した寄附行為に基づく法務局への登記は実施済み。
- (2) 目下内閣府に対しての申請を進めており、「定款」を改訂して関連法規に沿ったものとする事で認可を受ける事になっています（平成二十四年十一月申請済みで、現在は審査・審議中）。

2. 移行内容…

- (1) 公益財団法人としての移行を推進しており、この為の以下の要件を進捗または実施済みです…
- (2) 東京支部（事務所）の設定。
- (3) 行政官庁への申請と認可取得（内閣府に行っていますが、認可条件に合致しない場合は、埼玉県教育委員会になる事が想定されます）。
- (3) 定款の策定（寄附行為を置き換えるもの）。

「地域共存」65年

税理士法人 大久保会計

所 長 税理士 大久保 毅

副所長 税理士 大久保 栄吾

支店長 税理士 大久保 秀彦

〒361-0023 埼玉県行田市長野二丁目二五番三三三号
埼玉県熊谷市津田一一八八番地



www.gim.co.jp

株式会社 ジ ム

代表取締役会長
八木原 保

御名刺掲載欄

(順不同)

財団法人忍郷友会

会長

松平忠昌

〒214-0038 川崎市多摩区生田六―一五―三六
☎〇四四―九五五―九三三六

特別会員

白河藩阿部家二十二代当主

阿部正靖

〒297-0057 千葉県茂原市中善寺一〇九―八
電話 〇四七五―二六―五五七九

株式会社ケイマス

代表取締役

黒渕陽夫

〒361-0074 埼玉県鴻巣市赤城台三六―二―二二
TEL 〇四八―五六九―二二五二
FAX 〇四八―五六九―二二二二

公認会計士

奥貫健一

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷三―一―十五―四〇一

天眼寺住職

東瑞芳

〒110-0001 東京都台東区谷中一―二―十四
電話 〇三―三八二―七七七八

行田セレモニー

(株)ヨコカワ

代表取締役

横川福治

〒361-0073 埼玉県行田市行田一―一―三三
電話 〇四八―五五六―二二五八

棚沢書店

古本買入

棚沢孝一

〒113-0033 東大正門前
文京区本郷六―一八―一二
☎〇三―三八二―〇三四一

大野建設株式会社

代表取締役

大野年司

〒361-0056 埼玉県行田市持田三丁目四番三号
電話 〇四八(五五三)〇一〇〇

社会福祉法人財団若葉

若葉保育園

園長 保泉欣嗣

〒361-0073 埼玉県行田市行田十一―十
電話(〇四八)五五六―二七九七

山本食品工業株式会社

山本正幸

〒361-0025 埼玉県行田市埼玉四八六一
電話 〇四八―五五九―二二二一

ガクヤ株式会社

代表取締役社長

小池俊輔

〒361-0075 行田市向町十四―十二
☎〇四八―五五六―三二二一

行田市俳句連盟

木嶋清

(俳号斗川)

〒361-0001 埼玉県行田市北河原六三〇
電話・FAX(〇四八)五五七―〇二七三



医療法人 葦の会
石井クリニック

元氣いっぱい 笑顔いっぱい

理事長 石井義則

〒361-0037 埼玉県行田市大字下忍一〇八九―一
電話 〇四八―五五五―三五一九

東旭株式会社

代表取締役社長
小菅克祥

〒三六一〇〇一六
埼玉県行田市藤原町一丁目六一
TEL(〇四八)五五六一四五(代)
FAX(〇四八)五五六一四五五六

忍藩子ども塾素読教室

主幹
田代敬二

〒361-0073 行田市行田一六一一六
☎〇四八一五五六一三七二八

大岡産業株式会社

代表取締役

大澤 誠


〒361-0062 埼玉県行田市谷郷一三三〇一
TEL(〇四八)五五三二〇二八
FAX(〇四八)五五三二六八〇
携帯〇九〇一六〇二一六〇
http://www.ookasangyo.com/

渡辺株式会社

代表取締役

渡邊 栄一

〒361-0073 行田市行田一四
電話 〇四八一五五六一三一四六
FAX 〇四八一五五六一一二八八
自宅 〇四八一五五六一八九六八

曹洞宗 松雲山 長光寺
久寶山 興徳寺
雲峯山 東泉寺

住職
福島伸悦

(連絡先)
〒埼玉県行田市下中条一六一九一二
電話 〇四八一五五七一一〇九九
FAX 〇四八一五五七一一〇三四七
E-Mail: kotokujii@nuc.jglobene.jp

山本商事株式会社

東京海上日動火災保険株式会社(代理店)
東京海上日動あんしん生命保険株式会社

代表取締役
山本憲作

〒361-0074 埼玉県行田市旭町一〇一四三
TEL(〇四八)五五二二二二一
FAX(〇四八)五五二二二〇八
http://hoken-yamamoto.co.jp
e-mail: info@hoken-yamamoto.co.jp

羽生モータースクール

代表取締役

五十幡 和彦

〒348-0036 埼玉県羽生市大字砂山八〇
TEL(〇四八)五六一一三〇〇八
FAX(〇四八)五六一一一五四七
http://www.motorschool.co.jp
E-mail: hanyu@motorschool.co.jp

行田市 蓮の大使

木暮照子

日展会友・工芸美術
日本新工芸家連盟会員
蓮文化研究会理事・副会長

株式会社 リノン

LINON CORPORATION

代表取締役
新井啓介


〒361-0038 本社 埼玉県行田市前谷二五
Office: 25 Meiya Gokodai Satama-ken Japan
TEL(〇四八)五五一〇五九 FAX: 五五五三二七
携帯(Cell) 〇九〇一三三〇四四
http://www.linon.co.jp E-mail: arai@linon.co.jp

有限会社 高戸環衛

埼玉県知事登録番号 第515105号
〒515-1055 貯 第7973号

代表取締役
戸ヶ崎直司

〒361-0062 埼玉県行田市藤原町三十一一二六
電話 〇四八一五五四一九二〇
FAX 〇四八一五五六一二六二七

地元に着した住まいづくり

株式会社 ファイブイズホーム

代表取締役
細井保雄

〒361-0056 埼玉県行田市持田三丁目一番一七号
電話 〇四八(五五三)二二七二

会長

飯田芳幸


株式会社エンボリック
〒361-0001 埼玉県行田市北河原七〇五番地
TEL(〇四八)五五七三三六六(代表)
FAX 〇四八一五五七三三二二

財団法人忍郷友会

名誉理事

佐藤孝太郎

〒361-0076 行田市天満三十一十六
☎〇四八一五五六一一九〇〇

全国PHP友の会

特任顧問

加藤力也


〒362-0034 埼玉県上尾市愛宕三二二一一九
TEL 〇四八一七七一二五八五
E-mail: show-katou@nifty.com

綿貫守男

〒110-0016 東京都台東区台東一丁目三七番一〇号

小澤企画

各種相談・企画・コンサル

代表
小澤誠邦

〒361-0006 埼玉県行田市大字白川戸七〇二二一
TEL(〇四八)五六四一一一一
FAX(〇四八)五五二一〇五八二

 <p>株式会社倉持商店 紺織製品製造本舗・力王たび代理店 代表取締役 倉持成一郎 〒361-0022 埼玉県行田市桜町一丁目二十一番四 TEL 〇四八―五五六一―九一四 FAX 〇四八―五五三一―二八三</p>	<p>合資会社 青美矢沢商店 代表社員 矢澤大和 〒361-0073 埼玉県行田市行田二十―二十五 TEL 〇四八―五五六―三三二 FAX 〇四八―五五六―三七七</p>	<p>創業 文久二年 伝統の味 割烹 魚 豊 橋本恭一 TEL 〇四八―五五三―三一一 FAX 〇四八―五五三―三一四</p>	<p>(株)味工房 那のつ 代表取締役 阿部秀二郎 〒361-0023 埼玉県行田市長野一―三三―一〇 電話 〇四八―五五五―一四五〇</p>
<p>渡辺株式会社 常務取締役 渡邊久記 (グラフィック事業部) 〒361-0077 埼玉県行田市忍一―五十一―一〇二 電話 〇四八―五六四―六五二五</p>	<p>清善寺住職 松本皓一 〒361-0077 埼玉県行田市忍二―八―十八 電話 〇四八―五五六―三六八九</p>	<p>株式会社セテイアコーポレーション 代表取締役 岩崎安裕 〒323-0028 栃木県小山市若木町二―十一―一五 TEL 〇二八五―二二―三八八三(三代) FAX 〇二八五―二二―三五七七</p>	<p>《昭和14年創業》 各種自動車・重機・ラヂエーター販売修理 有限会社 小笠原ラヂエーター工業所 代表取締役 中川邦明 〒360-0023 埼玉県熊谷市佐谷田一―四三―二番地 TEL 〇四八(五二)―二―三三九五(代) FAX 〇四八(五二)―二―三三八四 自宅 TEL 〇四八(五三)―〇二七八</p>
<p>小山商事株式会社 代表取締役 小山喜一郎 〒361-0025 埼玉県行田市大字埼玉三三三五―一 TEL 〇四八(五五)―九四二―二二(代) FAX 〇四八(五五)―九二五―五〇</p>	<p>割烹 和可箱 飯島千裕 〒361-0074 埼玉県行田市旭町六―二―二 TEL 〇四八―五五四―三三三 FAX 〇四八―五五四―三三三</p>	<p>三共印刷株式会社 代表取締役 大谷純一 埼玉県行田市富士見町二―一―一三〇 TEL 〇四八―五五六―六二〇一</p>	<p>株式会社 田島エンジニア 東京海上日動火災保険株式会社(代理店) 東京海上日動あんしん生命保険株式会社 代表取締役 田島博夫 〒361-0073 埼玉県行田市行田五―一―〇 スリーハートビル2F TEL 〇四八(五六)―四一―三三二二 FAX 〇四八(五六)―四一―三三二二 E-mail: milien-tokent@tajimaagency.co.jp URL: http://www.tajimaagency.co.jp</p>
<p>〒360-0041 蔭山好信 埼玉県熊谷市宮町二丁目一―八番地 末広不動産宮町ビル二階・三階 TEL 〇四八―五九九―一三〇〇 FAX 〇四八―五九九―一三三〇 E-mail: kageyama@smile.ocn.ne.jp</p>	<p>弁護士 蔭山好信 弁護士法人蔭山法律事務所 代表社員 弁護士 弁護士</p>	<p>酔翁亭 華 月 平井ユリ枝 〒361-0072 埼玉県行田市宮本二―一八 TEL 〇四八―五五六―一七五五</p>	<p>開山慶長十一年 水戸黄門様ご宿泊のお寺 曹洞宗 龍淵山祥雲寺 住職 大西義道 〒300-0744 茨城県稲敷市押砂九三二二 電話 〇二九九(七九)―〇〇六四 FAX 〇九〇(八六)―四二―四四三一 携帯 〇九〇(八六)―四二―四四三一</p>

行田市の現勢

平成二十五年十一月一日

1 市役所所在地

〒三六一―八六〇一

埼玉県行田市本丸二番五号

TEL〇四八―五五六―一一一

FAX〇四八―五五六―一七六六

2 市制施行

昭和二十四年五月三日

3 面積

六、七三七km²

4 人口

八五、七八六八

5 世帯数

三〇、六〇三世帯

6 財政

二四六、八億円

7 市の機構

市長 藤 正 司

副市長 土 橋 義 男

8 教育委員会

委員長 岸 田 昌 久

教育長 中 村 猛

9 議 会

議員定数 二十四名 (無所属
十七、公明三、日本共産党二)

議長 香 川 宏 行

副議長 松 本 安 夫

10 学 校

専門学校 一校

高等学校 一校

中学校 八校

小学校 十六校

11 都市宣言

環境衛生都市宣言
人権尊重都市宣言
平和都市宣言
青色申告の都市宣言
交通安全都市宣言
暴走族追放都市宣言
非核平和都市宣言

12 まちづくりの目標

水と緑 個性あふれる文化都市

13 産業経済

製造品出荷額 二、五七四億円
(平成二十二年)

商品販売額 二、一七七億円
(平成十九年)

農業粗生産額 四十八億円
(平成十八年)

商店数 九八四店舗

工業事業所数 二二三事業所
(四人以上・平成二十二年)

教育文化センター

郷土博物館 忍城御三階櫓

産業文化会館・はにわの館

総合体育館・総合公園プール

市民プール・総合公園野球場

埋蔵文化財センター

公民館(十六館)・図書館

古代蓮会館・総合福祉会館

商工センター

風土記の丘さきたま古墳公園

忍城址公園(忍城御三階櫓)

古代蓮の里公園

行田市郷土博物館・利根大堰

水城公園・東照宮

14 公共施設

さきたま史跡の博物館

教育文化センター

郷土博物館 忍城御三階櫓

産業文化会館・はにわの館

総合体育館・総合公園プール

市民プール・総合公園野球場

埋蔵文化財センター

公民館(十六館)・図書館

古代蓮会館・総合福祉会館

商工センター

風土記の丘さきたま古墳公園

忍城址公園(忍城御三階櫓)

古代蓮の里公園

行田市郷土博物館・利根大堰

水城公園・東照宮

編集後記

九月八日(日)アルゼンチンのブエノスアイレスにて二〇二〇年のオリンピック・パラリンピックの東京開催が決定いたしました。

思えば第十八回オリンピックが東京で開催されてから五十六年がたつて二回目のオリンピックが実現したことになります。一九六四年十月十日、雲ひとつない秋晴れに恵まれた国立競技場に沢山の国の方々をお迎えして、華やかに開会式が行進が行なわれるのを見て胸がときめいたことを思い出します。

当時十七歳の高校二年生であった私は学校で連れて行ってくれた国立競技場のサッカーの試合を今でも思い出します。また日本人の選手の活躍、特に女子バレーの金メダルの瞬間はテレビで観戦していて大変感動いたしました。

さらにオリンピックの映像を単なる記録としてではなく、ドキュメンタリー風に作り上げた市川 崑監督の映像も印象深く記憶に残っています。オリンピックは国民の気持ちの一つになる大きなイベントであると思います。また大きな経済効果も生ま

み出す力もあります。

今回の招致活動は事前に十分な計画を行い何年かかけて国と招致委員会とが一体となって世界中の国々に日本のよさをアピールしてきた事と、当日の素晴らしいプレゼンテーションに携わった多くの方々のご努力によって決定したことであり、その事に大きな敬意を表しなければならぬと思います。

さて足元を見ると来年の七月二日、三日に行田市において第十二回の藩校サミットが開かれることが決定して今準備の最中であります。全国に行田(忍藩)のよさをアピールする良き機会であります。いわば行田市の発展の一助になる大きなイベントであると思えます。

開催までの残り少ない日々を行田市と実行委員会で十分な討議を重ね成功させていかねばならないと思えます。行田市民が「お・も・て・な・し」の心をもって全国からのお客様が来て良かったと心から喜んで頂けるよう準備いたしましょう。

黒淵 陽夫





発行者 財団法人 忍郷友会 会長 松平忠昌
事務局 埼玉県行田市行田五ー一〇
(十万石スリーハートビル3F)

TEL. 〇四八ー五五六ー九〇〇〇

FAX. 〇四八ー五五六ー九〇〇七

URL/www.oshi-goyukai.or.jp

e-mail/gyouda@oshi-goyukai.or.jp

印刷 三共印刷株式会社

〒三六一ー〇〇二一

埼玉県行田市富士見町二ー一ー三〇

TEL. 〇四八ー五五六ー六二〇一

FAX. 〇四八ー五五六ー六二〇四

